

福山市立大・大庭准教授 被爆アオギリの紙芝居用い 進徳女子高生徒に特別講義



福山市立大（同市港町）教育学部の大庭三枝准教授が4月19日、進徳女子高（広島市）の三年生三一人を対象に、広島原爆で被爆したアオギリをモチーフに制作した紙芝居「被爆アオギリ物語」を素材にした特別講義を行った。

紙芝居は大庭准教授が2006年、同大の前身である市立女子短大時代に当時のゼミ生と共に作ったもの。同高の卒業生で広島で被爆後、福山へ移り住み、20年に九三歳で亡くなるまで被爆アオギリ

を通じて平和の尊さを訴えた彦坂昭子さんとの親交がきっかけになった。

講義で大庭准教授は、彦坂さんが「（原爆の悲惨さを）小さな子供、若い人に伝えてほしい」との思いを強く持っていたことを紹介。「（紙芝居制作中に）何度もダメ出しをもらった」と述べた。また生前の映像を見せながら、「彦坂さんの願いは『平和の実現のために自ら行動する人になってほしい』ということだった」と伝えた。Ⅱ写真。

受講した同高の原田和季さん(17)は、「紙芝居なら平和について伝えやすいと思った。平和の尊さを伝えるためのいろいろな方法を学んでみたい」と感想を述べた。大庭准教授は「次の世代、次の時代を作る人に彦坂さんのメッセージを伝えたいと思った」と講義の狙いを話した。

同高は、同大教育学部三年に卒業生の寺田朱里さん(20)が在籍している縁で同大を訪問。

二班に分かれ、もう一つの班は児童虐待をテーマにした特別講義を受けた。

寺田さんは後輩に対し、「市立大入学後に視野が広がった。大学生活は自分次第」と呼び掛けていた。